

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

<学校の現状>

落ち着いた学校生活を送っている。670名を越える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事が学校生活の全般に良い影響を与えている。落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ学習と行事等にメリハリをつけた学校生活を送っている。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>

成果：補充学習等により生徒が意欲的に学習。家庭学習ノート提出の定着化。あいさつができる。

課題：わかる授業の展開と発展的な学習指導。学力調査結果における数値向上。自主的に学習する習慣の確立。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 基礎学力の定着と学力の向上**

- ①数学基礎テストの実施：算数・数学基礎テストを行い、個別指導を実施する。
- ②学習コンテストの実施：5教科各1回以上実施する。「わかった、できた」という達成感を味わわせる。
- ③従来型補充教室の実施：定期考査前と夏季補充合計で20日以上実施する。
- ④家庭学習ノート提出：大学ノート1日2ページ分の家庭学習を全生徒に課し毎日提出させる。
- ⑤各種検定試験の奨励：英検・漢検・数検の受験者数を増やし、学力の向上を図る。

重点的な取組事項－2 秩序と活力のある学校生活

- ①人権尊重に配慮した個別指導：年3回のいじめ質問紙調査及び個別面談等により見逃さない指導に徹する。
- ②達成感のある行事の推進：全校生徒が自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。
- ③不登校生徒への対応：教育相談部会で個に応じた効果的な対応を検討し、全教員で対応にあたる。

重点的な取組事項－3 小中連携とOJTを生かした教員の指導力向上

- ①小中合同による授業力の向上：小中合同の授業研究、授業参観等を年6回実施する。
- ②わかる授業の展開：全教員が年2回校内研究授業を実施し、教員相互の授業力向上を図る。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 基礎学力の定着と学力の向上**

- ①補充教室（数学基礎・学習コンテスト）は70日間実施した。テストの合格率は91%であった。昨年度に引き続き基礎だけでなく応用問題も取り入れた。継続して実施し、問題の精度を上げることができた。応用問題を確実に解ける指導も必要と考える。
- ②定期考査前補充教室19日間、夏期補充教室7日間実施した。参加生徒の意欲も高く内容の充実を図っていく。
- ③白鷺部（学習部）週2日実施した。全学年で22名程度入部した。時間は16時～17時の1時間で実施した。数学・英語の基礎問題や、授業進度の合わせた問題に取り組んでおり意欲の向上等効果が大きい。1、2年生はディベートや地域調査活動等にも参加した。
- ④各種検定試験：延べ240名が受験した（英検118名、数検23名、漢検101名）自主的学習能力の向上を図る。
- ⑤家庭学習ノートの提出：今年度の全校生徒平均提出率は91%であった。
- ⑥朝読書・朝学習の実施：朝読書・朝学習は定着している。委員会生徒を中心に主体的に取り組めるようにする。

重点的な取組事項－2 秩序と活力のある学校生活

- ①行事後の感想から、90%以上の生徒が各行事から達成感を得ている。次年度もこの風土を維持していく。
- ②人権に関わること、特にいじめに関することは、組織で情報を共有し即時対応した。この姿勢を堅持する。
- ③不登校生徒は4.4%だった。教育相談部会を中心に、関係機関との連携を深め不登校生徒0を目指す。

重点的な取組事項－3 学力向上を視点とした小中連携事業とOJTを活用した教員の指導力向上

- ①7つの分科会を設置し、小・中合同で指導案検討後、研究授業を実施した。次年度も洲江小・洲江第一小と連携し協議会を6回実施する。次年度も継続し、「小・中のつながり」「わかる授業」の実践に取り組む。
- ②全教員が指導案作成の上、研究授業を実施した。他教科についても積極的な助言ができるようになった。「主体的・対話的で深い学び」の授業の構築に向けて、各教科の実践を共有していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校は、18 学級で生徒数 630 名を越える大規模校です。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて、学力の向上に向けた学習や感動あふれる行事等に果敢に挑戦していきます。教科の授業だけではなく、道徳の時間や行事等で話し合活動を積極的に行っています。一人一人が自分の意見をしっかりと表明し、時には意見を激しく交わしあいながら互いの良さを見つけるとともに成長できるよう指導してまいります。次年度も「学習、学校行事、部活動等に主体的・積極的に取り組む生徒」「使命感に燃える教師集団」を目指し、充実した学校運営を推進していきます。

2. 平成 29 年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
平成 29 年度区学力調査結果の目標通過率において前年度(48%)比 4%増	区学力調査通過率 50%	4 月実施学力調査の通過率の平均は 52.2%であった。	目標を達成することはできた。基礎学力の定着を一層図る。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
＜基礎学力の保証＞ 数学基礎の充実	全教員が年間を通じて放課後補充教室で指導にあたる。個別指導時間の増加	数学ベーシックテストを実施し補充対象の生徒を選出する。個別指導を実施する。	数学基礎補充教室は 35 日間実施。	対象生徒があきらめることなく取り組めるよう粘り強く指導する。	○
＜学習意欲の向上＞ ①全校学習コンテスト	全学年全生徒の目標平均合格率を 90%以上にする。5 教科各 1 回以上実施	テスト後の補充教室 1 週間を使い個別指導で合格に導く。	全学年統一学力定着テストの合格率は 96.1%であった。	高水準を維持することができた。基礎問題にしたため、中・上位層の生徒の取り組み足りない。発展問題を取り入れ学力の向上をめざす。	○
②従来型補充教室の維持	定期考査前と夏季補充合計で 20 日以上	定期考査前 1 週間 夏季 7 日間実施	26 日実施した。	会議時間の工夫を図り実施日を増やした。内容の充実を図る。	○
＜自学自習能力の向上＞ 家庭学習ノートの毎日提出	完全提出者を 70%以上にする。	各学級担任（副担任）は、毎日点検し必要に応じて個別指導を実施。	全校生徒平均提出率 90.2%になった。	完全提出者は 58%であった。70%以上の生徒が完全提出できるようにする。	◎
＜発展的学習意欲の向上＞ 各種検定試験の奨励	英検・漢検・数検の受験者数 5%増	積極的な受験の奨励と受験のサポート	受験者は 240 名（英検受験者 118 名、数検受験者 23 名、漢検受験者 101 名）前年度（268 名）より 0.9%減少した。	積極的な受験を奨励し合格率をあげていく	●
わかる喜びを味わわせる授業の展開	わかりやすい授業と実感できる生徒を 85%以上にする。	研究授業の実施（年 2 回） 生徒による授業評価（年 1 回）	わかりやすい授業と実感できている生徒は 94%であった。	この状況を維持する	◎

重点的な取組事項－２ 秩序と活力のある学校生活

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価 90%以上を維持する。	「瀏江中学校に入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上を堅持	「本校に入学してよかった」という生徒の割合は平均で 94%だった。	「学校が楽しい」と感じている生徒の割合も平均で 95%である。次年度も堅持する。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重に配慮した個別指導	年 3 回のいじめ質問紙調査実施 年 3 回個別面談実施	得た情報をもとに、即時組織対応する。	いじめ解決率は 100%であった。すべて組織的に即時対応し解決した。	「いじめはどこかで発生する」という危機感の共有堅持	◎
達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。	全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。	運動会と文化祭における生徒の達成感は 92.3%であった。	一人一役の役割を与え、積極的に取り組ませる。	◎
不登校生徒への対応	不登校出現率 3%以内を堅持する	教育相談部会で個に応じた効果的な対応を追求し PDCA のサイクルで改善する	不登校生徒出現率は 4.4%だった。	教育相談部会を中心に関係機関と連携を図っていく。	○

重点的な取組事項－３ 小中の学力連携事業と教員の指導力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携と OJT を活用した授業力の向上	年度末の授業診断アンケートにおける肯定的評価 90%を維持する	生徒がわかりやすい教科として肯定的にとらえている割合 94%(昨年度 89.6%)	多くの生徒がわかりやすい授業を行っている回答した。学力の向上に向けて、授業改善に取り組んでいく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中合同による授業力の向上	教科別分科会を生かした小中合同の授業研究	年 2 回の合同授業研修会を含め、年間 6 回の合同研修会を実施する。	7 分科会に別れて指導案検討会の後、研究授業 6 回を実施した。	小中の学びの連続を意識できた。今後も、教員の相互理解を図る。	○
わかる授業の展開	小学校と連携しながら全教員が研究授業を実施	小・中のつながりを理解した上での指導案作成と研究授業実施(全教員 1 回以上)	全教員が指導案を作成に関わり、研究授業を 2 回実施した。	小中の学びの連続性を理解し授業力向上につなげていく。	○

3. 学校活動全般について

教師も生徒も率直に意見を交わし強い信頼関係で結ばれる学校を作り続けていきます。一人一人にきめ細かい指導を行い学習・行事・部活等、学校生活のあらゆる場面で高めあい、真の感動を共有し、困難なことでも乗り切れる「たくましく生きる力」を育成します。規律を重んじ、他者を思いやる心を育て、そして、何事にも果敢に挑戦し知・徳・体の調和のとれた生徒を育成していきます。